

## ニュース

## 山陰沖からセイウチの頭骨 2 個相次いで発見

星見 清晴\*・赤木 三郎\*\*

山陰沖の漁場から底引き網漁船が相次いでセイウチの頭骨化石を採集，鳥取県立博物館に寄贈された。

最初の一個は1988年6月，隠岐島北方22km，水深200m付近で採集された。犬歯の長さは40cm，後方に向かってゆるく弯曲しているが中間部が溶けて細くなっている(図1)。全体が灰白色で化石化はあまり進んでいないようで，成獣にしては小型である。

次に揚げたものは1989年3月，島根県浜田市の北方120km，水深260mの海底から産した。最初のものより更に小型で頭骨の幅18cm，高さ10cm，犬歯は上顎から9cmが残っており，磨耗されている(図2, 3)。化石化が進み頭骨全体が黄褐色に変色しており，重量もかなりある。歯式は I 1・C 1・P~M 3 で門歯と臼歯

3個は一列に並んでいる。牙状の犬歯のあること，大きな外鼻孔のあることから2標本ともセイウチ *Odobenus* と考えられる。

上記の2標本は保存状況，化石化の程度からみて前者の方が新しいようである。また両標本はその外形にかなりの差異が認められ別種とも考えられる。

セイウチ化石を産した地質時代は現在のところ不明であるが，Okamoto (1978)，Okamoto & Honza (1978)，Okamoto & Ibaraki (1989) により報告されている山陰沖の鮮新-更新統，とくに大桑-万願寺統との関連が考えられ，今後の研究がまたれる。現在，鳥取県立博物館を中心にして研究がすすめられている。

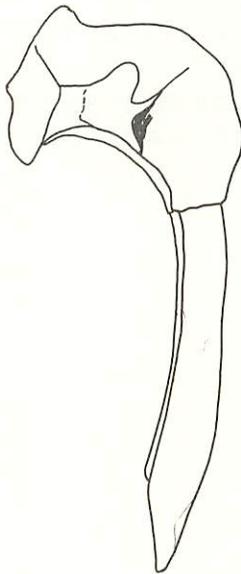


図1 隠岐島北方22kmで産出した頭骨(側面)。犬歯の長さ40cm

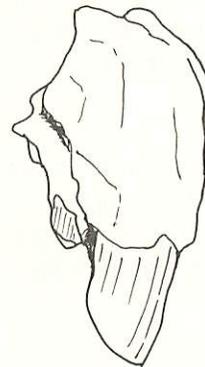


図2 浜田沖産出の頭骨(側面)。犬歯の長さ9cm

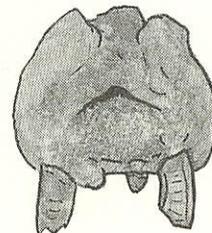


図3 浜田沖産出の頭骨(前面)

Kiyoharu Hoshimi and Saburo Akagi : Discovery of two skulls of the walrus from the off San-in.

\* 鳥取県立博物館

\*\* 鳥取大学教育学部地学教室